

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年2月6日

【四半期会計期間】 第195期第3四半期(自平成26年10月1日至平成26年12月31日)

【会社名】 株式会社福井銀行

【英訳名】 The Fukui Bank, Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表執行役頭取 伊東忠昭

【本店の所在の場所】 福井市順化1丁目1番1号

【電話番号】 (0776)24-2030(代)

【事務連絡者氏名】 経営管理グループマネージャー 堀内雅俊

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区鍛冶町1丁目8番8号  
株式会社福井銀行東京事務所

【電話番号】 (03)3253-2852

【事務連絡者氏名】 東京事務所長 蓑輪一範

【縦覧に供する場所】 株式会社福井銀行金沢支店  
(金沢市広岡3丁目1番1号)

株式会社福井銀行東京支店  
(東京都千代田区鍛冶町1丁目8番8号)

株式会社福井銀行大阪支店  
(大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号)

株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注)東京支店及び大阪支店は、金融商品取引法の規定に基づく縦覧に供すべき場所ではありませんが、投資者の便宜のため縦覧に供しております。

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

		平成25年度第3四半期 連結累計期間	平成26年度第3四半期 連結累計期間	平成25年度
		(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
経常収益	百万円	38,039	33,509	48,247
経常利益	百万円	13,181	8,924	14,376
四半期純利益	百万円	7,538	5,962	
当期純利益	百万円			7,443
四半期包括利益	百万円	6,002	13,656	
包括利益	百万円			6,088
純資産額	百万円	123,766	135,864	123,746
総資産額	百万円	2,300,535	2,447,145	2,313,182
1株当たり四半期純利益金額	円	31.64	25.00	
1株当たり当期純利益金額	円			31.24
潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益金額	円	31.59	24.94	
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	円			31.19
自己資本比率	%	4.74	4.95	4.72

		平成25年度第3四半期 連結会計期間	平成26年度第3四半期 連結会計期間
		(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)	(自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	円	11.16	9.53

- (注) 1 当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。  
2 第3四半期連結累計期間に係る1株当たり情報の算定上の基礎は、「第4 経理の状況」中、「1 四半期連結財務諸表」の「1株当たり情報」に記載しております。  
3 自己資本比率は、( (四半期) 期末純資産の部合計 - (四半期) 期末新株予約権 - (四半期) 期末少数株主持分 ) を (四半期) 期末資産の部の合計で除して算出しております。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### 業績の状況

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、平成26年4月の消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響は全体として和らいでおり、景気は穏やかな回復基調が続いております。また、日本銀行の量的・質的金融緩和の拡大により投資家心理の改善が続き、12月には日経平均株価が1万8,000円近くにまで回復しました。今後は、世界景気減速などの不透明感はあるものの、国内の雇用・所得環境の改善、各種経済政策や金融政策等の効果もあり、引き続き穏やかな回復を続けていくとともに、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が収束していくことが期待されております。

当行の主要な営業基盤である福井県におきましても、個人消費の底堅さや製造業を中心とする設備投資の増加を背景に、景気は穏やかに回復しつつあります。雇用・所得面においては、労働需給は引き続き改善傾向にあり、雇用者所得も穏やかに持ち直しておりますが、複数の原子力発電所が立地する嶺南地域の経済動向について引き続き注視が必要なる状況にあります。

このような状況のもと、当第3四半期連結累計期間の業績は次のとおりとなりました。

当第3四半期連結会計期間末の連結財政状態につきましては、総資産は前連結会計年度末比1,339億円増加し2兆4,471億円、純資産は前連結会計年度末比121億円増加し1,358億円となりました。

主要勘定につきましては、貸出金は、事業性貸出金をはじめ、地公体向け貸出金及び消費者ローンがともに順調に推移したことなどから、前連結会計年度末比744億円増加し1兆5,625億円となりました。譲渡性預金を含めた預金等は、個人預金の増加を主因に、前連結会計年度末比586億円増加し2兆1,504億円となりました。また、有価証券は、前連結会計年度末比932億円増加し6,598億円となりました。

当第3四半期連結累計期間の連結経営成績につきましては、経常収益は、貸出金利息及び償却債権取立益が減少したことなどから、前年同期比45億30百万円減少し335億9百万円となりました。また、経常費用は、国債等債券売却損が減少したことなどから、前年同期比2億73百万円減少し245億84百万円となりました。

この結果、経常利益は前年同期比42億57百万円減少し89億24百万円となり、四半期純利益は前年同期比15億75百万円減少し59億62百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間の報告セグメントごとの損益状況につきましては、「銀行業」の経常収益は、前年同期比35億19百万円減少して284億9百万円、セグメント利益は前年同期比37億19百万円減少して、84億17百万円となりました。「リース業」の経常収益は、前年同期比13億60百万円減少して54億21百万円、セグメント利益は前年同期比5億7百万円減少して、2億7百万円となりました。報告セグメント以外の「その他」の経常収益は、前年同期比49百万円減少して7億14百万円、セグメント利益は前年同期比22百万円減少して、3億16百万円となりました。なお、それぞれの計数にはセグメント間の内部取引を含んでおります。

## 国内業務・国際業務部門別収支

資金運用収支は、資金運用収益が200億26百万円、資金調達費用が7億57百万円で192億68百万円の利益となりました。役務取引等収支は、役務取引等収益が52億82百万円、役務取引等費用が18億44百万円で34億37百万円の利益となりました。その他業務収支は、その他業務収益が59億16百万円、その他業務費用が45億89百万円で13億26百万円の利益となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額( )	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第3四半期連結累計期間	19,498	580		20,079
	当第3四半期連結累計期間	18,380	888		19,268
うち 資金運用収益	前第3四半期連結累計期間	20,177	634	24	20,787
	当第3四半期連結累計期間	19,067	996	37	20,026
うち 資金調達費用	前第3四半期連結累計期間	679	53	24	707
	当第3四半期連結累計期間	687	108	37	757
役務取引等収支	前第3四半期連結累計期間	3,367	57		3,425
	当第3四半期連結累計期間	3,379	58		3,437
うち 役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	5,047	84		5,132
	当第3四半期連結累計期間	5,198	83		5,282
うち 役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	1,679	26		1,706
	当第3四半期連結累計期間	1,819	24		1,844
その他業務収支	前第3四半期連結累計期間	1,669	616		2,286
	当第3四半期連結累計期間	729	597		1,326
うち その他業務収益	前第3四半期連結累計期間	6,894	666		7,561
	当第3四半期連結累計期間	5,319	597		5,916
うち その他業務費用	前第3四半期連結累計期間	5,225	49		5,274
	当第3四半期連結累計期間	4,589	0		4,589

- (注) 1 国内業務部門は当行及び国内に本店を有する連結子会社(以下、「国内連結子会社」という。)の円建取引、国際業務部門は当行の外貨建取引及び海外に本店を有する連結子会社(以下、「海外連結子会社」という。)の取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。
- 2 資金調達費用は、金銭の信託運用見合費用(前第3四半期連結累計期間1百万円、当第3四半期連結累計期間1百万円)を控除して表示しております。
- 3 資金運用収益及び資金調達費用の相殺消去額は、当行の国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。

国内業務・国際業務部門別役務取引の状況

役務取引等収益は、52億82百万円となり、役務取引等費用は18億44百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	5,047	84	5,132
	当第3四半期連結累計期間	5,198	83	5,282
うち 預金・貸出業務	前第3四半期連結累計期間	1,252	0	1,252
	当第3四半期連結累計期間	1,218		1,218
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	1,708	76	1,785
	当第3四半期連結累計期間	1,699	76	1,776
うち証券関連業務	前第3四半期連結累計期間	699		699
	当第3四半期連結累計期間	724		724
うち代理業務	前第3四半期連結累計期間	179		179
	当第3四半期連結累計期間	169		169
うち保証業務	前第3四半期連結累計期間	428	7	435
	当第3四半期連結累計期間	391	7	398
うち保険販売業務	前第3四半期連結累計期間	271		271
	当第3四半期連結累計期間	377		377
役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	1,679	26	1,706
	当第3四半期連結累計期間	1,819	24	1,844
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	356	14	370
	当第3四半期連結累計期間	361	13	375

(注) 国内業務部門は当行及び国内連結子会社の円建取引、国際業務部門は当行の外貨建取引及び海外連結子会社の取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

国内業務・国際業務部門別預金残高の状況

預金の種類別残高(末残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第3四半期連結会計期間	1,966,529	15,677	1,982,206
	当第3四半期連結会計期間	2,019,686	14,228	2,033,915
うち流動性預金	前第3四半期連結会計期間	1,052,913		1,052,913
	当第3四半期連結会計期間	1,107,671		1,107,671
うち定期性預金	前第3四半期連結会計期間	904,718		904,718
	当第3四半期連結会計期間	903,131		903,131
うちその他	前第3四半期連結会計期間	8,898	15,677	24,575
	当第3四半期連結会計期間	8,884	14,228	23,113
譲渡性預金	前第3四半期連結会計期間	116,512		116,512
	当第3四半期連結会計期間	116,536		116,536
総合計	前第3四半期連結会計期間	2,083,042	15,677	2,098,719
	当第3四半期連結会計期間	2,136,223	14,228	2,150,452

(注) 1 国内業務部門は当行及び国内連結子会社の円建取引、国際業務部門は当行の外貨建取引及び海外連結子会社の取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めておりません。

2 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金

3 定期性預金 = 定期預金 + 定期積金

国内業務・国際業務部門別貸出金残高の状況  
業種別貸出状況(末残・構成比)

業種別	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内業務部門	1,472,093	100.00	1,558,320	100.00
製造業	214,045	14.54	211,292	13.56
農業、林業	972	0.07	406	0.03
漁業	28	0.00	27	0.00
鉱業、採石業、砂利採取業	2,291	0.16	3,676	0.23
建設業	46,601	3.17	49,701	3.19
電気・ガス・熱供給・水道業	30,368	2.06	31,642	2.03
情報通信業	10,231	0.70	15,667	1.00
運輸業、郵便業	29,070	1.97	31,903	2.05
卸売業、小売業	157,632	10.71	170,898	10.97
金融業、保険業	68,618	4.66	80,779	5.18
不動産業、物品賃貸業	133,904	9.10	144,238	9.26
その他サービス業	94,705	6.43	93,504	6.00
地方公共団体	254,148	17.26	269,236	17.28
その他	429,474	29.17	455,343	29.22
国際業務部門	6,820	100.00	4,266	100.00
政府等				
金融機関				
その他	6,820	100.00	4,266	100.00
合計	1,478,913		1,562,586	

(注) 国内業務部門は当行及び国内連結子会社の円建取引、国際業務部門は当行の外貨建取引及び海外連結子会社の取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	565,647,320
計	565,647,320

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年2月6日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	241,446,697	同左	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株
計	241,446,697	同左		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年12月31日		241,446		17,965		2,614

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成26年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 577,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 239,482,000	239,482	
単元未満株式	普通株式 1,387,697		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	241,446,697		
総株主の議決権		239,482	

(注) 1 上記の「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が3,000株含まれております。

また、「議決権の数」の欄に、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権が3個含まれております。

2 「単元未満株式」の欄には、当行所有の自己株式171株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社福井銀行	福井市順化1丁目1番1号	577,000		577,000	0.23
計		577,000		577,000	0.23

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。



## 第4 【経理の状況】

- 1 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」（昭和57年大蔵省令第10号）に準拠しております。
- 2 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（自平成26年10月1日至平成26年12月31日）及び第3四半期連結累計期間（自平成26年4月1日至平成26年12月31日）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人の四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
現金預け金	175,221	98,847
コールローン及び買入手形	25,475	63,385
買入金銭債権	1,103	515
商品有価証券	193	207
金銭の信託	6,003	6,056
有価証券	<sup>2</sup> 566,617	<sup>2</sup> 659,845
貸出金	<sup>1</sup> 1,488,150	<sup>1</sup> 1,562,586
外国為替	6,433	10,001
その他資産	24,314	26,238
有形固定資産	21,343	20,962
無形固定資産	658	598
繰延税金資産	3,011	1,189
支払承諾見返	<sup>2</sup> 12,656	<sup>2</sup> 14,157
貸倒引当金	18,001	17,448
資産の部合計	2,313,182	2,447,145
<b>負債の部</b>		
預金	2,032,612	2,033,915
譲渡性預金	59,170	116,536
債券貸借取引受入担保金	19,859	68,897
借入金	22,541	40,710
外国為替	462	211
社債	10,000	10,000
その他負債	22,674	14,704
賞与引当金	218	3
役員賞与引当金	25	26
退職給付に係る負債	4,933	5,414
睡眠預金払戻損失引当金	325	281
偶発損失引当金	324	321
耐震対応損失引当金	501	465
繰延税金負債	-	2,513
再評価に係る繰延税金負債	3,128	3,122
支払承諾	<sup>2</sup> 12,656	<sup>2</sup> 14,157
負債の部合計	2,189,436	2,311,281
<b>純資産の部</b>		
資本金	17,965	17,965
資本剰余金	2,630	2,654
利益剰余金	72,041	76,444
自己株式	729	559
株主資本合計	91,907	96,505
その他有価証券評価差額金	11,645	19,036
土地再評価差額金	5,624	5,614
退職給付に係る調整累計額	49	33
その他の包括利益累計額合計	17,319	24,684
新株予約権	81	118
少数株主持分	14,439	14,556
純資産の部合計	123,746	135,864
負債及び純資産の部合計	2,313,182	2,447,145

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
経常収益	38,039	33,509
資金運用収益	20,787	20,026
(うち貸出金利息)	15,793	14,779
(うち有価証券利息配当金)	4,503	4,642
役務取引等収益	5,132	5,282
その他業務収益	7,561	5,916
その他経常収益	<sup>1</sup> 4,559	<sup>1</sup> 2,284
経常費用	24,857	24,584
資金調達費用	709	759
(うち預金利息)	513	500
役務取引等費用	1,706	1,844
その他業務費用	5,274	4,589
営業経費	16,028	16,710
その他経常費用	<sup>2</sup> 1,137	<sup>2</sup> 680
経常利益	13,181	8,924
特別利益	-	0
固定資産処分益	-	0
特別損失	113	96
固定資産処分損	42	13
減損損失	70	82
税金等調整前四半期純利益	13,068	8,828
法人税、住民税及び事業税	521	1,875
法人税等調整額	4,553	646
法人税等合計	5,075	2,522
少数株主損益調整前四半期純利益	7,993	6,306
少数株主利益	455	343
四半期純利益	7,538	5,962

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	7,993	6,306
その他の包括利益	1,991	7,349
<sub>  </sub> 其他有価証券評価差額金	1,991	7,365
<sub>  </sub> 退職給付に係る調整額	-	15
四半期包括利益	6,002	13,656
<sub>  </sub> 親会社株主に係る四半期包括利益	5,483	13,338
<sub>  </sub> 少数株主に係る四半期包括利益	518	317

## 【注記事項】

(会計方針の変更)

(「退職給付に関する会計基準」等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下、「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下、「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率を使用する方法から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が399百万円増加し、利益剰余金が257百万円減少しております。また、当第3四半期連結累計期間の経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ8百万円増加しております。

(「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」の適用)

「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成25年12月25日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。なお、当実務対応報告適用初年度の期首より前に締結された信託契約に係る会計処理につきましては従来採用していた方法を継続するため、当実務対応報告の適用による四半期連結財務諸表への影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

### 1 税金費用の処理

連結子会社の税金費用は、当第3四半期累計期間を含む年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じることにより算定しております。

(追加情報)

当行は、従業員への福利厚生を目的として、従業員持株会に信託を通じて自社の株式を交付する取引を行っております。

#### (1) 取引の概要

当行は、従業員に対して中長期的な企業価値向上のインセンティブを付与すると同時に、福利厚生の増進策として、持株会の拡充を通じて従業員の株式取得及び保有を促進することにより従業員の財産形成を支援することを目的として「信託型従業員持株インセンティブ・プラン」(以下、「本プラン」という。)を導入しております。

本プランは、「福井銀行職員持株会」(以下、「持株会」という。)に加入するすべての従業員を対象とするインセンティブ・プランです。本プランでは、当行が信託銀行に「福井銀行職員持株会専用信託」(以下、「従持信託」という。)を設定し、従持信託は、その設定後5年間にわたり持株会が取得すると見込まれる数の当行株式を予め取得します。その後は、従持信託から持株会に対して継続的に当行株式の売却が行われるとともに、信託終了時点で従持信託内に株式売却益相当額が累積した場合には、当該株式売却益相当額が残余財産として受益者適格要件を満たす者に分配されます。

なお、当行は、従持信託が当行株式を取得するための借入に対し保証することになるため、当行株価の下落により従持信託内に株式売却損相当額が累積し、信託終了時点において従持信託内に当該株式売却損相当の借入金残債がある場合は、保証契約に基づき、当行が当該残債を弁済することになります。

(2) 「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成25年12月25日)を適用しておりますが、従来採用していた方法により会計処理を行っております。

(3) 信託が保有する当行の株式に関する事項

信託における帳簿価額

前連結会計年度600百万円、当第3四半期連結会計期間426百万円

当該当行の株式を株主資本において自己株式として計上しているか否か

信託が保有する当行の株式は株主資本において自己株式として計上しております。

期末株式数及び期中平均株式数

(千株)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
期末株式数	2,844	1,921
期中平均株式数	3,375	2,371

の株式数を1株当たり情報の算出上、控除する自己株式に含めているか否か

期末株式数及び期中平均株式数は、1株当たり情報の算出上、控除する自己株式に含めております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
破綻先債権額	1,002百万円	854百万円
延滞債権額	41,083百万円	37,593百万円
3ヵ月以上延滞債権額	252百万円	4百万円
貸出条件緩和債権額	287百万円	170百万円
合計額	42,626百万円	38,623百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

2 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額は次のとおりであります。

前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
3,194百万円	2,728百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
償却債権取立益	2,821百万円	833百万円
株式等売却益	833百万円	354百万円
貸倒引当金戻入益	223百万円	189百万円

2 その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
貸出金償却	399百万円	446百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
減価償却費	911百万円	677百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月10日 取締役会	普通株式	597	2.5	平成25年3月31日	平成25年6月7日	利益剰余金
平成25年11月8日 取締役会	普通株式	594	2.5	平成25年9月30日	平成25年12月5日	利益剰余金

(注) 平成25年5月10日取締役会決議及び平成25年11月8日取締役会決議の配当金の総額には、それぞれ従持信託に対する配当金9百万円及び8百万円を含めておりません。

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

3 株主資本の金額の変動に関する事項

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高(百万円)	17,965	2,630	66,244	998	85,841
会計方針の変更による累積的影響額					
会計方針の変更を反映した当期首残高	17,965	2,630	66,244	998	85,841
当第3四半期連結会計期間末までの変動額(累計)					
剰余金の配当			1,191		1,191
土地再評価差額金の取崩			9		9
四半期純利益(累計)			7,538		7,538
自己株式の取得				439	439
自己株式の処分			4	223	219
自己株式の消却			453	453	
当第3四半期連結会計期間末までの変動額(累計)合計			5,878	238	6,117
当第3四半期連結会計期間末残高(百万円)	17,965	2,630	72,123	760	91,958

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月9日 取締役会	普通株式	714	3.0	平成26年3月31日	平成26年5月30日	利益剰余金
平成26年11月7日 取締役会	普通株式	596	2.5	平成26年9月30日	平成26年12月4日	利益剰余金

(注) 平成26年5月9日取締役会決議及び平成26年11月7日取締役会決議の配当金の総額には、それぞれ従持信託に対する配当金8百万円及び5百万円を含めておりません。

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の金額の変動に関する事項

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高(百万円)	17,965	2,630	72,041	729	91,907
会計方針の変更による累積的影響額			257		257
会計方針の変更を反映した当期首残高	17,965	2,630	71,783	729	91,649
当第3四半期連結会計期間末までの変動額(累計)					
剰余金の配当			1,311		1,311
土地再評価差額金の取崩			10		10
四半期純利益(累計)			5,962		5,962
自己株式の取得				3	3
自己株式の処分		23		173	197
自己株式の消却					
当第3四半期連結会計期間末までの変動額(累計)合計		23	4,661	170	4,856
当第3四半期連結会計期間末残高(百万円)	17,965	2,654	76,444	559	96,505



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	銀行業	リース業	計		
経常収益					
外部顧客に対する 経常収益	31,748	6,310	38,058	182	38,241
セグメント間の内部 経常収益	181	472	653	580	1,234
計	31,929	6,782	38,712	763	39,475
セグメント利益	12,136	715	12,852	339	13,191

(注) 1 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、コンピュータ関連業務、投資業を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	12,852
「その他」の区分の利益	339
セグメント間取引消去	10
四半期連結損益計算書の経常利益	13,181

(注) 一般企業の四半期連結損益計算書の営業利益に代えて、経常利益を記載しております。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

固定資産の減損損失については重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	銀行業	リース業	計		
経常収益					
外部顧客に対する 経常収益	28,240	5,082	33,322	187	33,509
セグメント間の内部 経常収益	169	339	509	527	1,036
計	28,409	5,421	33,831	714	34,545
セグメント利益	8,417	207	8,625	316	8,941

(注) 1 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、コンピュータ関連業務、投資業を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	8,625
「その他」の区分の利益	316
セグメント間取引消去	17
四半期連結損益計算書の経常利益	8,924

(注) 一般企業の四半期連結損益計算書の営業利益に代えて、経常利益を記載しております。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

固定資産の減損損失については重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がないため、記載しておりません。

(有価証券関係)

1 本項目は企業集団の事業の運営において重要なものとして記載しております。

2 四半期連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「買入金銭債権」中の信託受益権を含めて記載しております。

1 満期保有目的の債券

前連結会計年度（平成26年3月31日）

該当ありません。

当第3四半期連結会計期間（平成26年12月31日）

該当ありません。

2 その他有価証券

前連結会計年度（平成26年3月31日）

	取得原価(百万円)	連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	20,452	26,193	5,741
債券	424,734	434,987	10,252
国債	188,569	194,532	5,962
地方債	88,336	91,721	3,384
短期社債			
社債	147,828	148,734	905
その他	103,732	105,302	1,570
合計	548,919	566,483	17,564

当第3四半期連結会計期間（平成26年12月31日）

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	24,228	34,510	10,281
債券	419,652	431,791	12,139
国債	171,400	178,431	7,031
地方債	84,548	88,337	3,788
短期社債			
社債	163,703	165,022	1,319
その他	186,362	192,704	6,341
合計	630,244	659,006	28,762

(注) その他有価証券のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって四半期連結貸借対照表計上額（連結貸借対照表計上額）とするとともに、評価差額を当第3四半期連結累計期間（連結会計年度）の損失として処理（以下、「減損処理」という。）しております。

前連結会計年度における減損処理額はありません。

当第3四半期連結累計期間における減損処理額はありません。

当該減損処理にあたっては、四半期連結決算日（連結決算日）の時価が50%以上下落した銘柄についてはすべて、また、これ以外で、時価が30%以上下落した銘柄については、過去の一定期間の下落率及び当該発行会社の業績推移等を考慮したうえで、価格回復の可能性の認められないものについて、それぞれ減損処理を行っております。

(金銭の信託関係)

本項目は企業集団の事業の運営において重要なものとして記載しております。

1 満期保有目的の金銭の信託

前連結会計年度(平成26年3月31日)

該当ありません。

当第3四半期連結会計期間(平成26年12月31日)

該当ありません。

2 その他の金銭の信託(運用目的及び満期保有目的以外)

前連結会計年度(平成26年3月31日)

	取得原価(百万円)	連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
その他の金銭の信託	6,003	6,003	

当第3四半期連結会計期間(平成26年12月31日)

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
その他の金銭の信託	6,056	6,056	

(デリバティブ取引関係)

本項目は企業集団の事業の運営において重要なものとして記載しております。

(1) 金利関連取引

前連結会計年度(平成26年3月31日)

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	金利先物			
	金利オプション			
店頭	金利先渡契約	5,600	14	14
	金利スワップ			
	金利オプション			
	その他			
合計			14	14

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)等に基づき、ヘッジ会計を適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

当第3四半期連結会計期間（平成26年12月31日）

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品取引所	金利先物			
	金利オプション			
店頭	金利先渡契約			
	金利スワップ	4,900	10	10
	金利オプション			
	その他			
合計			10	10

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号）等に基づき、ヘッジ会計を適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(2) 通貨関連取引

前連結会計年度（平成26年3月31日）

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品取引所	通貨先物			
	通貨オプション			
店頭	通貨スワップ	7,814	3	3
	為替予約	14,850	9	9
	通貨オプション	105,791		564
	その他			
合計			6	558

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

当第3四半期連結会計期間（平成26年12月31日）

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品取引所	通貨先物			
	通貨オプション			
店頭	通貨スワップ	5,862	1	1
	為替予約	32,292	616	616
	通貨オプション	112,549		454
	その他			
合計			614	160

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。

(3) 株式関連取引

前連結会計年度（平成26年3月31日）

該当ありません。

当第3四半期連結会計期間（平成26年12月31日）

該当ありません。

(4) 債券関連取引

前連結会計年度（平成26年3月31日）

該当ありません。

当第3四半期連結会計期間（平成26年12月31日）

該当ありません。

(5) 商品関連取引

前連結会計年度（平成26年3月31日）

該当ありません。

当第3四半期連結会計期間（平成26年12月31日）

該当ありません。

(6) クレジット・デリバティブ取引

前連結会計年度（平成26年3月31日）

該当ありません。

当第3四半期連結会計期間（平成26年12月31日）

該当ありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額		31円64銭	25円00銭
(算定上の基礎)			
四半期純利益	百万円	7,538	5,962
普通株主に帰属しない金額	百万円		
普通株式に係る四半期純利益	百万円	7,538	5,962
普通株式の期中平均株式数	千株	238,233	238,499
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		31円59銭	24円94銭
(算定上の基礎)			
四半期純利益調整額	百万円		
普通株式増加数	千株	372	572
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要			

(注) 株主資本において、自己株式として計上されている従持信託に残存する当行の株式は、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

(千株)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数	3,375	2,371

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

平成26年11月7日開催の取締役会において、第195期の中間配当につき次のとおり決議しました。

中間配当金の総額 602百万円

1株当たりの金額 2円50銭

支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成26年12月4日

(注) 中間配当金の総額には、従持信託に対する配当金5百万円を含めております。



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 2月 5日

株式会社福井銀行  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 浜 田 亘

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 松 本 大 明

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 轡 田 留 美 子

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社福井銀行の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成26年10月1日から平成26年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社福井銀行及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

( ) 1 . 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当行(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 . XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。